



バーチャルとリアルを取り入れた一体的な指導

西部教育事務所 所長 岩崎 聡

新年度になり、西部教育事務所管内にある5つの県有施設、**歴史博物館、近代美術館、土屋文明記念文学館、自然史博物館、セカイト（世界遺産センター）**に挨拶回りをしました。歴博、近美、文明、自然史のように実物を見たり、触れたりできるところもあれば、セカイトのように富岡製糸場のことをふんだんにまとめてあり、現地を見学する前に立ち寄っておきたいというところもあります。どの施設も展示内容や方法が工夫されており、子供たちの興味・関心を高め、理解を深めるには最高の場だということを改めて実感しました。



5月8日から、新型コロナウイルス感染症の扱いが2類から5類に変わり、各学校では「〇〇の活動はコロナ前に戻すのか、戻さないのか。」と悩まれているのではないのでしょうか。その中でも、子供たちが校外で体験する活動は、どちらかというに戻される方向にあるのではないかと思います。冒頭で書いた県有施設への訪問の時に、施設の方から「最近、専門的な知識が豊富な子が増えているように感じる。学校で多様な感性を認めるようになってきたせいでしょうか？」という質問を受けました。学校教育のおかげだと言ってもらいたいと思いつつ、どうしてだろうと考えました。そのとき、私が考えたのは、次の2つです。1つは、やはりネット環境の変化です。学校でもICTが急速に導入されましたが、家庭ではすでに様々なものが取り入れられていると思います。テレビでも地上波だけでなく、

YouTube やインターネットでの動画配信が多く見られるようになりました。そのような環境の中、子供たちは与えられたものだけでなく、自分で観たいものを探して観ることができます。自分の納得がいくまで、掘り下げていくことができるということです。限られた資料でしか調べられなかった時代とは大きく違うのではないかと思います。2つ目は、冒頭にあげたような施設に連れて行ってもらえるということです。学校も多様な感性を認めるようになってきましたが、保護者も同じように変わってきているのではないかと思います。そして、本物に触れさせたいという思いが強くなっていると感じます。1つのことでも探究心をもって、深く掘り下げていこうという姿勢は、きっと他にもつながることだと思います。

自分が関心をもったことを、そのタイミングで調べられる、そして、本物を見たいと思ったら見られる。このことは、子供の探究心を育てる上で、たいへん重要なことなのではないかと改めて考えさせられました。学校での教育も同じではないかと思います。本やインターネットの世界で得た知識や体験と、現地で見たり触れたりする体験を通して一体的に指導されることで、子供たちの理解がより深まっていくのだと思います。バーチャルとリアルを取り入れた一体的な指導で、子供たちの学びたいという意欲をより一層高めていきましょう。



各学校における教育目標の具現化に向け、西部教育事務所では下記の事業の支援を行っています！

・「各教科等授業改善プロジェクト 指定校事業」（群馬県教育委員会 義務教育課）

※ 管内6校の指定校に、各教科の目標に迫ることを目指した授業づくりについて研究を進めていただいております。指定校及び研究教科については以下のとおりです。

- | | | |
|------------------------|---|---------------|
| ○高崎市立堤ヶ岡小学校・高崎市立群馬南中学校 | ： | 家庭科 |
| ○藤岡市立美土里小学校・藤岡市立西中学校 | ： | 生活科・総合的な学習の時間 |
| ○富岡市立高瀬小学校・富岡市立南中学校 | ： | 外国語 |

・「スクールカウンセラースーパーバイザー、スクールソーシャルワーカーの派遣」

※ スクールカウンセラースーパーバイザー、スクールソーシャルワーカーの派遣ができます。いじめ、不登校、学力不振、非行等の問題に対して、関係機関等とのネットワークを活用したり、ケース会議をしたりしながら困難な事案の解決に向けた支援を行います。

・「専門相談員の派遣」

※ 各学校・園等に在籍する特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒への指導等について、先生方の相談に応じています。通常の学級・特別支援学級・通級指導教室を問いません。

上記事業・支援については、西部教育事務所のHPをご覧ください

自他のよさを認め、仲間を支える心を育む生徒指導の充実を!

管内の各学校におかれましては、いじめの積極的な認知をはじめ、生徒指導上の様々な問題に対し、早期かつ組織的なご対応をいただいていることに深く感謝申し上げます。生徒指導上の問題は、ここ最近、自傷行為、暴力行為、ネットに関係したものが増加し、特に不登校児童生徒数の増加が喫緊の課題となっています。

昨年12年ぶりに生徒指導提要も改訂されましたが、これまでの指導の方向性と大きく変わるものではありません。ただ、下記に示した構造図のとおり、**全ての児童生徒を対象にした課題予防的生徒指導の重要性**が強調されています。これは、日常生活の中で、児童生徒一人一人が大切にされている実感をもてるようにしたり、学級をはじめとした集団の中で自分の居場所があるという安心感をもてるようにしたりといった全ての児童生徒を対象にした指導の充実が重視されていることとなります。昨今では、発達障害を抱えるなど児童生徒一人一人がもつ困り感も多様となっています。担任だけでなく、学校全体が一つのチームとなり共通理解を図りながら、豊かな集団生活が営まれる学級や学校づくりを行い、児童生徒一人一人が**自他のよさを認め、仲間を支える心を育む生徒指導の充実**を図りましょう。

不登校児童生徒への支援の充実に向けて

改訂された生徒指導提要では、これまで3層構造で示していたものが、**未然防止の重要性**に注目し「**課題未然防止教育**」が新たに加わり、4層から成る生徒指導の**重層的支援構造**を示しています。

ポイント その1



教職員と多職種の専門家等と共に学校がチームとして機能していますか？

- 学級担任 保護者
- 教育相談担当教諭
- 養護教諭 教育支援センター
- SC フリースクール
- SSW 医療機関
- 特別支援教育コーディネーター 児童相談所 など

自組織でつながっている部分に☑を入れて確認してみよう!

不登校児童生徒への支援には、**教職員及び関係機関の連携・協働**が必要不可欠です。



不登校対応の重層的支援構造
「生徒指導提要」文部科学省 令和4年12月 より

ポイント その2



「全ての児童生徒」に対して未然防止をねらいとした意図的、組織的、系統的な教育を心がけていますか？

課題未然防止教育

- ・SOSを出す力の獲得
- ・SOSを受け止める力の向上

具体例

- ・いじめ防止教育
- ・SOSの出し方教育
- ・情報モラル教育
- ・自殺予防教育
- ・非行防止教育 等

発達支持的生徒指導

- ・学校が安全・安心な居場所
- ・魅力ある学校づくり
- ・分かりやすい授業

具体例

- ・日常の分かりやすい授業づくり
- ・道徳教育などによる思いやりの育成
- ・日々の声かけ、励まし、賞賛 等

課題未然防止教育や日常の生徒指導を基盤とする**発達支持的生徒指導**により、**全ての児童生徒にとって安全、安心な学校**となるような風土づくりや働きかけ(生徒指導)が大切です。

これまでの生徒指導では、事象が現れてきたものに対して行うものというイメージが強かったように思われますが、日々の授業や生活における働きかけ、未然防止のための教育など、**全ての児童生徒に対して行う生徒指導を重視**することが大切になります。



群馬県教育委員会では、生徒指導や不登校支援に関する情報をリーフレットやホームページにて発信しています。(QRコード 左:リーフレット「**児童生徒理解に基づく成長を促す生徒指導の充実**」、右:県HP「**全ての子どもたちが学び続けるために**」)ぜひ、参考にしてください。

